

関西インバウンド事情

● 放 眼 日 中

★

3月末に関西地方へ出掛けた。アジアを「ほつつき歩いてる」筆者にとつては、日本国内を歩くこともまた一つのアジアの旅であり、また関西には10年以上足を踏み入れておらず、ある意味、アジアを訪れるのと同様の緊張感があつた。

ちょうど桜が開花しており、せつかくだからと奈良にお花見に行った。奈良公園には大勢の観光客が来ていて、名物の鹿に煎餅をやつてはしゃいでいた。そうした中で、修学旅行生に加えて中国人と台湾人が多かったのに驚いた。確か、昨年の尖閣諸島問題以降、中国人観光客が激減していると報道されていたのだが…。香港にいた時も旅行関係者の「富裕層向けの訪日旅行を取りやめている。だいたい、今行く理由がない」との話に納得したばかりだったので、ち

よつと意外だった。彼らは大人数の団体ではなく、数人のグループ、特に比較的若い層が多いようだった。京都在住者によると、最近金閣寺などでも中国人観光客が目立つという。大阪で同じホテルに泊まっていた

香港人観光客に話を聞くと、「大阪は食べ物たべものが美味い。商品が安い。奈良や京都、神戸などの観光地に近い。遊ぶには良い場所だ」と大阪を絶賛していた。確かに香港人、中国人が好きそうな串カツ、たこ焼きなどが売られており、食べ歩きもできるので、環境が他のアジア諸国に近い。

実際、大阪、京都などのホテルは予約客でかなり埋まっており、安宿ですら確保するのに苦労した。3月末という転勤や入学に伴う引越越しシーズンだったことも原因だろうが、春休みに加えて、海外からの旅行者

が多かったこともあるだろう。香港〜関西線がある格安航空会社(LCC) ピーチの料金は全日本空輸とそれほど変わらないレベルにまでなっていた。

アジアを歩いていると、どうしても宗教と向き合う機会が増える。日本と中国では聞かれないが、他の国では「おまえの宗教は何だ、仏教徒か」と言われることが多いが、日本の仏教について説明できる知識を持つておらず、恥ずかしい思いをすることもある。そこで、今回初めて高野山に登ってみた。

高野山を訪れる外国人には、欧米人が多い。老夫婦がバッグを背負つて旅している光景にも出会った。その多くが宿坊に泊まるが、やはり1泊1万円は掛かるので、何日も滞在することが難しいと嘆いていた。日

本人なら日帰りか1泊だろうが、彼らの志向からすると数日滞在して、ゆつくりとその楽しさを味わうことが多いからだ。

昨年、高野山奥の院近くにゲストハウスを開いた日本人夫婦がいた。ゲストハウスと言えば、ベッド一つのドミトリを連想するが、ここでは日本的なカプセルホテルの様式を取り入れ、狭いながら個室空間をつくり出しており、何となく仏教修行をしているような気分になれる。ロビーには宿泊客の交流の場があり、旅の情報を交換するなど思い思いの時間を過ごせる。欧米人旅行者が多く泊まっていて好評だった。

各地の良さを知ってもらうには、1日の滞在では難しい。中・長期滞在に対応するサービスの出現が、日本の観光を変えていく気がした。



コラムニスト・アジアウォッチャー 須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。